

「トマホーク持てない」

84年に政府答弁 穀田氏追及で判明

衆院外務委

日本共産党的穀田惠二議員は10日の衆院外務委員会で、政府が400発もの導入を計画

する米国製の長距離巡航ミサイル・トマホークについて、1984年6月に「攻撃的兵器」として「自衛隊は持てない」との認識を示していました。豊田政権は日本が保有するトマホークについて、「攻撃的兵器ではない」「敵基地攻撃用の範囲内」だと繰り返していました。穀田氏は「トマホークは『攻撃的兵器』といふのが外務省の見解だった」ということにはないか」と追及。林芳介外相は「議事録は存在する」と述べつつも答弁を避けました。



質問する穀田惠二議員
（撮影：1984年6月10日、衆院外務委）

年の国際連隊で「攻撃的兵器」とあると認定した上で、「自衛隊は持てない」との認識を示していましたことを明らかにしました。

穀田政権は日本が保有するトマホークについて、「攻撃的兵器ではない」「敵基地攻撃用の範囲内」だと繰り返していました。穀田氏は「トマホークは『攻撃的兵器』といふのが外務省の見解だった」ということにはないか」と追及。林芳介外相は「議事録は存在する」と述べつつも答弁を避けました。

また穀田氏は、米軍

は相手の迎撃能力を超える弾数で一斉攻撃する「飽和攻撃」でトマホークを使用し、トマホークの保有は「自衛隊は持てない」と明言していました。穀田氏は「トマホークの保有は「自衛隊の必要最小限度を超過する」とは明らかだ」と厳しく批判しました。

があるか追及しました。

井野俊郎防衛副大臣

10日の参院予算委員会で浜田靖一防衛相が「米国のように飽和攻撃ができる装備は『今どきの』持っていない」と言いました。

及し、トマホークを取扱した場合、敵基地攻撃能力の行使として飽和攻撃に使う可能性

は相手の迎撃能力を超える弾数で一斉攻撃する「飽和攻撃」でトマホークを使用し、トマホークの保有は「自衛隊の必要最小限度を超過する」とは明らかだ」と厳しく批判しました。

あるか迫及しました。

殺傷してきたと指摘された。

井野俊郎防衛副大臣は「個別具体的に判断する」と答弁し、可能性を否定しませんでした。穀田氏は、トマホークの保有は「自衛隊の必要最小限度を超過する」とは明らかだ」と厳しく批判しました。